

中国人にとっては

# 満州移民は侵略者だった!

開拓団といっても、持ち主のない荒地を開墾したわけではなく、現地住民を追い払って既耕地を奪い、入植者の土地を確保したものが大部分でした。たとえば、ある関係者の次のような証言があります。

「満鉄の系会社・東亜勸業株式会社が買収に当たったが、中国農民の意向に関係なく、軍の威圧の下に強制的に土地を買収していった。買収価格は、時価の3分の1、5分の1という値で買収した。地券を出ししぶる農民には、隠してある地券を兵士が銃剣で壁を壊して探し出し、取り上げるという手段が取られた。第2次移民のために取り上げられた土地の71%は既耕地だった。」

また逃避行中の日本人を襲撃し略奪したある中国人がこう言っています。「日本人は私の父を殺し、私の母と姉を強姦した。私の妹をさらっていった。日本人は私たちの家を焼き払った。私たちの土地を奪った。私たちは牛や馬みたいに働かされ、使い物にならなくなったら順番に殺される。これ、私だけではない。満州でいっぱいあった話。王道楽土、嘘ばかり。五族協和嘘ばかり。日本人は満州を焼きつくし、奪いつくし、殺しつくした。私には、この家をもらうくらいの権利はある。」現地の中国人にとって、日本からの開拓移民は侵略者・征服者以外の何物でもありませんでした。(高橋健男著『赤い夕陽の満州にて』)

## 第2次武装移民として入植した 千振村開拓団の広大な農地



農地を取り上げられた現地農民の襲撃事件が絶えなかった。

写真は『写真集まぼろし国満州』(江成常著、新潮社より)

すべて殺しつくし、焼きつくし、奪いつくす  
(三光作戦)



日本軍は、中国民衆をみんな抗日分子とみなした。



(写真は『写真記録日中戦争 5』ほるぷ出版より)

関連ホームページ



三光作戦

<https://ja.wikipedia.org/wiki/三光作戦>